

## デブリードメント

褥創の治療は、栄養不良及び持続的な圧迫という大変条件の悪い中での治療になり、また体の一番下になる部位にできるため創部の汚染が付き物です。褥創表面に壊死組織があると創部の炎症反応が持続し、肉芽ができて治癒していく創面と、壊死組織を除去しようとして蛋白分解していく創面が混在した、いわゆる慢性の創傷となってしまいます。

さらに汚染に対して壊死組織(痂皮)は防御機能がないため、痂皮の下で感染巣が形成されてしまいます。褥創の黒いカサブタを取ると下から膿が出てくることが多いのは、このような結果によるのです。

感染した褥創では、できるだけ早く外科的に壊死組織を除去する必要があり、また感染していない場合もすみやかに壊死組織を取り除くことを目的に局所療法を行います。

感染していない場合に用いる方法は、もちろん外科的デブリードメントでも構わないのですが、他に酵素製剤を使う酵素による化学的デブリードメント、創面から出てくる滲出液の持つ自己融解作用を利用する自己融解によるデブリードメントなどがあります。

感染があまりはっきりしていなくても、ポケットがあって治らなくなっている場合に外科的デブリードメントが選択されます。この時は電気メスを使うことが必須で、ポケットを全て除去してもいいし、ポケットの周辺部のみをまず除去し、後はポケットの深いところへ向かって放射状に切開を加えるのみの方法も選ばれます。



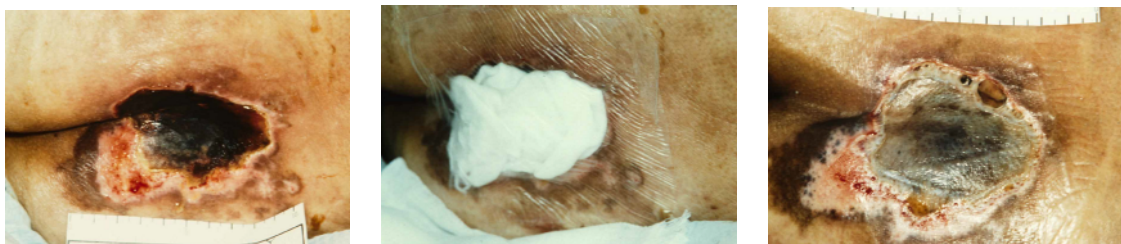
難治性のポケットがみられる



電気メスを使って切除する

デブリードメントに使う酵素製剤としては、バリダーゼ局所用、エレース末、プロメライン軟膏が市販されています。酵素剤を使うときは、壊死組織はあるも

の感染がコントロールされていることが大切です。(現在バリダーゼ局所用の販売は中止されています)



バリダーゼ局所用を用いて壊死組織を融解し、この後容易にデブリードメントできる

自己融解によるデブリードメントには、乾燥させながら痂皮を浮き上がらせる方法と、湿潤環境にして痂皮を全体的に溶かしていく方法があります。両者とも感染徴候の出現には十分気をつけ、感染徴候があれば直ちに外科的デブリードメントを選択します。乾燥させて周囲に黄色の軟化した部分を浮き上がらせその部分にハサミを入れて壊死組織を除去する方法より、全体を湿潤に保って壊死組織全体を柔らかくして除去する方法がすぐれており、治癒のスピードアップが図れます。



イソジンシュガーによって乾燥させ、デブリードメント：除去部の色は悪い



デュオアクティブにて壊死組織を自己融解しデブリードメント：下には良性肉芽がみれる

褥創の治療においては、壊死組織の除去はすみやかに行うことが大切で、大きくわけて3つの方法がありますが、それぞれの利点を知り状況に合わせて選択していきます。

このようなデブリードメントの方法は、褥創に限らず他の創傷にももちろん使うことが勧められます。褥創の治療には他の創傷の治療法が応用でき、また褥創で良かった方法は他の創傷に利用することによってより速くきれいに痛くなくキズを治すことが可能になります。

このように褥創は一般の創傷と同じ範疇との考え方が発展的です。